

整理番号 : SDS-CPP013-04
最新改訂日 : 平成30年10月9日
発行日 : 令和3年6月7日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名 : FA FMAK-EI FS LPK2 PP3KZ
FA-DEI FP FTG MCMD-AS
FAK FPH FTK MCMD-AS2
FHK2 FPHBK FTNK-99 PP3K
FHK2-L FPK FZN PP3KR
FHK2R FRAK-EI HK-DEI PP3KR-BT

(※末尾-A, -7, -9の製品も含む)

会社名 : フタムラ化学株式会社 名古屋工場
住所 : 愛知県海部郡大治町大字西條字笠見立1-1
担当部門 : 品質グループ 製品安全チーム
作成者 : 製品安全チーム チームリーダー
電話番号 : (052)444-9820 FAX番号(052)444-3358
緊急連絡先 : 同上
電話番号 : 同上
Eメールアドレス : hinhomsds@futamura.co.jp
整理番号 : SDS-CPP013-04

2. 危険有害性の要約

分類の名称 : 消防法 指定可燃物(合成樹脂類 3000kg)に該当する。
危険性 : 化学的に安定である。
有害性 : 生物学的に不活性であり、人体への特別な毒性作用はない。
環境影響 : 野外に露出した場合、鳥等の動物が飲み込み窒息する可能性がある
ので破棄や露出には注意を要する。
GHS分類 : 分類基準に該当しない。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物
化学名 : ポリプロピレン
化学式又は構造式 : 非開示
官報公示整理番号 : 非開示
CAS No. : 非開示

4. 応急措置

目に入った場合 : 清水で洗い流し、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合 : 特にその必要はないが、異常がある場合は医師の診断を受ける。
吸入した場合 : 特にその必要はないが、異常がある場合は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合 : 直ちに吐かせる。異常がある場合は医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤 : 水、粉末消火剤

整理番号 : SDS-CPP013-04
 最新改訂日 : 平成30年10月9日
 発行日 : 令和3年6月7日

消火方法 : 消火剤、大量の水を用いる。消火する時は空気呼吸器を着用する。
 燃焼物の危険有害性 : 不完全燃焼した場合、一酸化炭素等の有害ガスを発生する。

6.漏出時の措置

: 回収し、破棄または焼却する。

7.取り扱い及び保管上の注意

取扱い : ①歩行域には人が転倒しないようにフィルムを取り除くよう留意する。
 ②フィルムを取扱う場合は、静電気除去装置を必要な場所に適宜配置し、人体を保護する必要がある。また、溶剤等の引火による火災発生を防止する必要がある。
 ③荷崩れ防止や落下防止等一般的な製品取扱上の注意をする。
 ④重量物については手足の保護、腰痛防止の為の適切な治具を用いる必要がある。
 保管 : 熱・発火源から離れた所で、高温多湿を避け、屋内に保管する。

8.暴露防止及び保護措置

許容濃度 : 該当しない
 管理濃度 : 該当しない
 設備対策 : 該当しない
 保護具 : 特に必要としない

9.物理的及び化学的性質

外観等 : 透明フィルム
 密度 : 0.85～0.95
 沸点 : 情報無し
 蒸気圧 : 情報無し
 揮発性 : なし
 融点 : 120～165℃
 溶解度 : 水に不溶

10.安定性及び反応性

引火点 : 340℃～400℃
 発火点 : 400℃～500℃
 爆発限界 : 情報なし
 可燃性 : あり
 発火性 : なし
 酸化性 : なし
 自己反応性・爆発性 : なし
 粉塵爆発性 : なし
 安定性・反応性 : 常温で安定
 (注) 粉塵になり、静電気・空気等の条件が整えば、一般的には粉塵爆発の可能性はある。

11.有害性情報

皮膚腐食性 : なし
 刺激性(皮膚・眼) : 加熱条件によっては、加熱溶融時の蒸気・ガスは目・呼吸器等を刺激することがある。
 感作性 : なし
 急性毒性 : ①マウスに安定剤を含まない粉末を8g/kg投与したが、何ら障害は認められなかった。*1
 ②ラットに14Cでラベルした試料を経口投与した場合、その物質は体内に全く認められず、摂取量が完全に排出された。*1
 亜急性毒性(慢性毒性) : 知見なし
 がん原性 : IARCの発がん性区分でグループ3(ヒトに対し発がん性について分類できない)に分類されている。 *2

整理番号 : SDS-CPP013-04
 最新改訂日 : 平成30年10月9日
 発行日 : 令和3年6月7日

変異原性 : 知見なし
 生殖毒性 : 知見なし
 催奇形性 : 知見なし

*1「食品用プラスチック衛生学」厚生省環境衛生局食品化学課編(講談社)
 *2 IARC MONOGRAPHS Supplement No.7 Overall evaluations of
 carcinogenity:An updating of IARC Monographs Volumes 1to 42,1987

12.環境影響情報

残留性・分解性 : 実質上生分解性なし。
 生体蓄積性 : なし
 環境影響・生態毒性 : 海洋生物、鳥類が摂取することを防止する為、いかなる海洋や水域でも投棄、放出してはならない。

13.廃棄上の注意

廃棄方法 : ①埋め立てる時は、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に従って、公認の廃棄物処理業者もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはその団体に委託・処理する。
 ②焼却する時は、焼却設備を用い、「廃棄物の処理および清掃に関する法律」、大気汚染防止条例等の処分令に適合した処理を施して焼却する。

14.輸送上の注意

: ①梱包材が破れないように、水漏れや乱暴な取扱を避ける。
 ②火気、高温度は避ける。

15.適用法令

労働安全衛生法 : 該当なし
 PRTR法(化管法) : 該当なし
 毒・劇物法 : 該当なし
 化審法 : 優先評価化学物質(20ppm以下)含有あり
 消防法 : 指定可燃物(合成樹脂類 3000kg)
 廃棄物処理法 : 産業廃棄物・廃プラスチックに該当

16.その他の情報

用途制限 : 下記の用途(部材等として使用)及び包装には使用しないで下さい。
 ①人体への移植
 ②血液と接触する医薬品
 ③粘膜に接触する医薬品
 ④液状内用薬
 (*③の場合、経口投与の固形製剤は、その該当ではありません。)
 その他の医薬用途及び包装に使用する際は、弊社医薬品用途アンケートを弊社にご提出頂いた上で、貴社の責任にて使用の可否を判断下さい。
 記載内容の取り扱い : 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
 また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特別な取扱いをする場合は用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。
 記載内容は情報提供であって、保証するものではありません。
 その他の関係法令 : 食品衛生法への適合についてはお問合せ下さい。